

社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が生かされる教育の推進

さいたま市教育委員会教育長 細田 眞由美

社会は、技術革新とグローバル化の進展に伴う産業構造や社会システムの変化により、今後さらに急速に変わっていくと見込まれています。こうした中で、学校教育においては、子どもたちに、自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する力をはぐくむことが求められています。

平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領では、学校と家庭、地域が連携・協働しながら「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。これは、これからの社会を創り出していく子どもたちが自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを教育課程において明確にし、はぐくんでいくことを示しています。行政及び学校は、このような国の動きを踏まえつつ、市民、保護者の願いを受け止め、様々な施策や教育活動を展開する必要があります。

そこで、平成 30 年度は、「社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が生かされる教育の推進」を教育行政方針の目標の一つとし、「知」「徳」「体」「コミュニケーション」のバランスのとれた子どもをはぐくむとともに、家庭や地域社会と連携・協力した地域とともにある学校づくりに取り組みます。

具体的には、この先 10 年を見据えた子どもたちの未来のための計画「PLAN THE NEXT」を掲げ、「3つのG」を重視していくことで日本一の教育都市を目指します。3つのGの一つ目は「Grit」で、これまで本市の学びを支えてきた非認知能力を強化し、やり抜く力を高めるとともに、質の高い授業を展開することにより「真の学力」を育成するものです。二つ目は「Growth」で、小・中・高等学校の12年間の学びの連続性を考慮し、家庭や地域社会と連携したり、市独自の学習状況調査等を活用したりしながら、一人ひとりの成長と生涯学び続ける力を育成するものです。三つ目は「Global」で、小・中学校9年間の一貫した「グローバル・スタディ」等における学びを高校教育につなぎ、激動する世界を舞台に挑戦する主体性と創造性等を養うとともに、多様性を受け入れ、活用できる力を育成するものです。

この他にも、SOS の出し方に関する教育の推進、中等教育学校の整備、特別支援学級や通級指導教室、スクールソーシャルワーカーの拡充等、多様な教育施策を展開します。加えて、学校・家庭・地域の連携による教育の推進を目指し、チャレンジスクールの充実、各学校での特色を活かした給食やきめ細かな食育の推進等に努めます。

各学校において、社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が生かされる教育の推進に向けた教育課程を編成・実施するため、《学校教育の指針》を、引き続き、次の4点としました。

《学校教育の指針》

- 1 確かな学力をはぐくみ、個性を生かす教育の推進
- 2 豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進
- 3 豊かなかかわり合いを大切にする教育の推進
- 4 地域に根ざした信頼される学校づくりの推進

本市の教育を支えるのは、直接子どもたちと接する校長先生をはじめとする一人ひとりの先生方です。各学校では、本冊子を十分に活用していただき、教育課程を編成・実施・評価・改善することにより、各学校の教育目標の実現と「さいたま市学校教育ビジョン」の具現化に向けて御尽力さ

さいたま市教育委員会 子どもたちの未来のための PLAN THE NEXT*

3つのGで「日本一の教育都市」へ

Grit

「やり抜く
力」で真の学
力を育成する

“認知能力”と“非認知能力”で
「真の学力」の育成

- 自制心ややり抜く力の育成
- 学びに向かう力の育成
- 規範意識の育成
- 自尊感情の醸成

Growth

一人ひとりの
成長を支え生
涯学び続ける
力を育成する

学校や子どもたちの成長を支えるシステ
ムづくり

- 小・中・高・特別支援学校の12年間の
連続性を持った指導
- それぞれの学校と子どもたち一人ひと
りの成長物語(ポートフォリオ)の作成
- 生涯学び続ける力の育成

Global

国際社会で活
躍できる人材
を育成する

世界に通用する総合的な力やマインド
の育成

- グローバル・スタディの充実
- 国際バカロレア教育の導入
- バラエティに富んだ国際交流の実施
- 多様性(ダイバーシティ)を受け入れ
繋いでいく力の育成
- 自国の文化の理解と発信力の育成

* Plan for The Next Decade : 次の10年の計画